

震災や原発事故などまだ知らぬ福島は小高に四年住みたり  
幼子連れて住みたる浜通り 花見、野馬追い、鮭のぼる川

冬の朝車のガラスは白い霜、風呂の残り湯ぶっかけて出る  
夏の朝蹄の音の響き来て旗指物揺れる「野馬追の郷」

春秋の乗馬の会の握り飯、浅蜷、茸を炊き込みてあり  
福島に睦みし友の幾世帯、原発汚染に還れぬと聞く

株売られ社名も残らぬ「東通」を想えば苦しき今日も生きおり。

## 福島東洋通信機の思い出

### 屋代矩夫

私は東洋通信機に1972年に入社しました。それから34年間勤めさせて頂き2005年10月エプソントヨコムとなりましたが、2007年に定年致しました。34年間は水晶部門に殆ど関与させてもらいました。その間良い思い出、悪い思い出が沢山ありましたが、

現在振り返ってもよい思い出しか残っていない。入社配属部署は水晶開発部で、中沢さんや畑野さんとそうそうたる先輩たちがおられました。水晶の基本から教育を厳しく指導して頂きました。それがそれよりも週2回飲み会がありました。私も酒は好きでしたが皆さんガンガン飲まれ、強いのは脅かされました。その後もお酒の話は尽きなかったことが思い出されます。その中에서도やはり福島東洋通信機保原工場に2回単身赴任した時のことが思い出として残っています。1回目は1991年44歳時、生産技術部長として、2回目は1997年48歳時、工場長としてそれぞれ2年強赴任しました。1回目の時は土、日曜日自宅に帰ることが殆どなく、毎日お酒



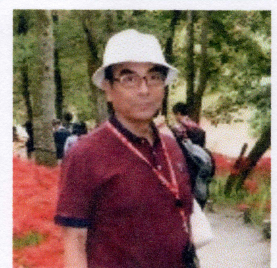
最近の様子

を飲み歩いていました。さらに毎週パーシモン、福島カントリー等でゴルフを多くの方々とプレイしておりました。また2回目の赴任は3年間赤字続きの工場のため上から「黒字化せよ」の拜命を受け行きました。しかし1年たっても中々業績は上がらず、その原因が皆さんと会話をする時の空気が悪い事に気がきました。そこで黒字の小高工場にもおじゃましていろいろ勉強させてもらいました。その後厚木の自宅へ帰る途中秋葉原に寄り、手品を買ってそれを月1回の工場長談話終了後披露しました。初めは皆さん何だ何だに興味を示しませんでした。ある時から「黒字浮上」の手法を手品に取り入れえました。そして毎日各現場に「黒字浮上」を呼びかけました。もちろん夜勤者の方々にも手品を披露して呼びかけました。そして何と1年2か月後の1996年、49歳の時黒字になりました。この業績は1人1人の積み重ねる努力、そして保

原工場全体の総合力で達成できたと感じました。それは月例会で報告した時の皆さんの喜びの感動顔に現れていて、今だに心に焼き付いています。あー懐かしや、あー懐かしや保原工場。

## 奥田さんの思い出 門馬直成

私35歳の時小高工場に入社しました。それまで福島東洋通信機なる会社名も、小高町に工場がある事さえ知りませんでした。小高工場の本幡曉さんから誘われ、東洋通信機の斎藤専務と一緒に仕事をしませんかと言われたのがきっかけで入社しました。新入社員としての教育担当が、原工場長付きの奥田さんでした。これが奥田さんとの出会いで、現地の人でないと出来ない地元対策、人手不足対策、人材採用対策、そして小高工場を立派にする事が仕事と言われました。入社一日目から教育が始まり、この奥田さんの教えが、私の小高での全



埼玉県巾着田にて

ての仕事の基本になりました。『技術屋が書いた経理の本』等の本を明日まで読んで感想を求められる日々が始まりました。奥田さんは無知な私を必死になつて教えようとしている事が良く分かりました。決して妥協を許さない人でしたが一緒に居ると気遣いが細やかで、とても優しい人だと良く分かりました。その中で特に強く記憶に残っている思い出を2つ3つお話しします。1つは人が集まらない事にどのような行動を起こすかと言われ、会社が知られてないのが最大の原因と、招待もされてない高校の卒業式に参列し市長らと共に強引に壇上に上がり来賓として社名を読んで貰う行動をした事が有りましたがお咎めもなく、その後の会社を知って貰う同様な無謀な行動も理解

して頂きました。それに連れ相双地区で会社が知られてきて生徒が入りたい、親が入りたい会社になりました。これが出発点で優秀な人材も多く集まるようになりました。2つ目に求められたのは儲かる工場にする行動でした。私は人件費を安く稼働時間増大と答え、助言を受けながら外部人材で稼働を増やす行動を実行しました。労働法のクリアなど大変苦勞しましたがそれが、社長から総ミラーガラス張りの食堂棟が小高の成果に対するご褒美と頂ける一助になったと思っております。その他、世界で立派な仕事をしている人の話を聞くようにと、後にアップルジャパンの社長(アップル本社副社長兼務)と意見交換したのも心に残る楽しい思い出です。本場に小高の為に尽力頂きました。二年程前に訃報を開き驚きと共に御礼も言えなくなり本当に申し訳なく思っております。心より奥田様のご冥福をお祈り申し上げます。